

## 関西財界セミナー—京都国際会議場で開催

2月8日9日の両日、京都市左京区の国立京都国際会館で第62回関西財界セミナーが開催された。関西経済連合会、関西経済同友会が主催するこのセミナーは、開催の企業経営者が約600名弱集まる一大イベント。全体会議や6つの分科会で今後の関西経済界が進むべき道を討議した。国際情勢の不安定化、デジタル技術の急速な進歩、急激な少子化の進行などの外部環境を踏まえて、今後の具体的な方針を討議した。



〈解説〉毎年京都の国際会議場で行われている関西財界セミナー。今年も2日間にわたり、開催の首長、経済界の代表などが参集し、多くの討議が繰り広げられた。ひとつひとつの報道をみていると、非常に有意義な発言や、現実的な提案もあり、国や行政機関にすぐに取り上げて欲しい内容もある。今年も6つの分科会に分かれ、それぞれの参加者が意見を述べ合った。大阪万博をテーマにした分科会もあり、ここでは成功に向けた意思統一がなされた。さすがに、中止延期の討議は

なかったようだ。DXをテーマにした分科会では、利用活用の提案もあったが、都市と地方との格差を懸念する意見もあった。また、今後の生産労働人口の減少社会に向けた提言が多くあった。関西に限らず、少子化高齢化はこの地域でも共通の課題であり、子育て環境の整備や教育への公的資金投下への提案も多くあった。特に大阪では教育費の無償化、給食費の無償化など、先進的な事例が多く参考になる。広域の自治体で連携を図る関西広域連合は、他の地域にはない特徴のある取組であり、連合体である。関西経済は相互に連携して動いていることが多く、特に京阪神の3府県、京都府と滋賀県、滋賀県と福井県、大



阪府と兵庫県、京都府と奈良県、大阪府と和歌山県などの関係は、単に隣接しているというだけではない密接な関係性が濃い。水資源の利用、電力網のネットワーク、鉄道などの公共輸送、通勤圏と通学圏の重なりなど、多くの生活インフラ要素が相互に提供し、依存している。空港も、滋賀県、京都府にはなく、大阪府、兵庫県に集中している。私鉄路線が多いのも特徴だ。これら相互の関係をどのように今後発展させていくのか。当面は、大阪関西万博と北陸新幹線の延伸が目先の課題か。

